TADOKU JUNIOR 自然のふしぎ神話 ★★★☆☆ ふつう 470語

The Palace of Alkinoös

アルキノオスのきゅうでん

Flora J. Cooke（1895年の本） 原文そのまま 朗読：Linette Geisel

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？ やさしい王さまアルキノオスの国に、いくさすきなくらい色の人々が、かみなりといなずまを持ってせめてきました。王さまは……。

On a high plain covered with flowers once lived good King Alkinoös and his gentle people, the Phaiakians.

They were great sailors and went about in silver ships without rudders or sails.

These wonderful ships went slowly or very fast just as the sailors wished.

For many years the Phaiakians were peaceful and happy.

Though they were as brave as they were gentle, they hated war.

Far below the Phaiakians, in a valley, lived a people larger, darker, fiercer than themselves.

These dark people cared for nothing so much as war and conquest.

When they saw the silver ships with the golden prows, they wanted them for their own.

They armed themselves and made ready for a great battle.

To be sure of victory, they borrowed the thunder and lightning from Zeus.

The day came and all was ready for the dark people to advance.

They reached the land of the Phaiakians in the morning and King Alkinoös came forward to meet them.

They soon saw that he alone was more powerful than their entire army.

He was dressed in armor so bright that it dazzled their eyes to look at it. It was covered with millions of golden arrows tipped with diamonds. The king showed the frightened people how he could shoot the arrows in all directions at the same time.

The dark people trembled with fear, but King Alkinoös smiled at them, and then he and his people sailed slowly away toward the West.

On and on they went, until they came to a great silver sea.

Here they stopped and built a palace for their king.

This palace was made of silver and gold and precious stones.

Its towers were rose color and shone with a wonderful light.

Its steps were of pure gold.

On each side of the silver gates were huge dogs which guarded the palace.

There were boys in the halls dressed in white, holding burning torches.

There were girls weaving wonderful curtains and painting pictures upon the walls.

There were mountains and fountains, and rivers and lakes.

There were singing birds and flower gardens, and little children everywhere.

Even to this day, the great king often sits in his palace in the West when his day's work is done.

He loves to see the people glide about upon the silver sea, in their ships without rudders or sails.

The fierce, dark people still go to war.

They seldom let the gentle king see them fighting.

Yet often after a brave battle, Alkinoös comes out of his palace and smiles brightly upon them. The dark people blush and seem to smile at the king.

You must find out how much good these dark people do and how the King of the Phaiakians helps them in their work, if you wish to understand their friendship.



花でおおわれた高い平原に、むかし、よい王さまアルキノオスと、そのやさしい人々、パイエケス人がすんでいました。

パイエケス人はすばらしい船乗りで、かじも、風をうけるぬの（ほ）もない銀の船に乗って、あちこちへ出かけました。

このふしぎな船は、船乗りたちの思いどおりに、ゆっくり進んだり、とても速く進んだりしました。

長いあいだ、パイエケス人はへいわで、しあわせにくらしていました。

やさしいだけでなく、とてもいさましくもありましたが、いくさは大きらいでした。

パイエケス人のずっと下の谷には、もっと大きくて、色がくらく、もっとあらあらしい人々がすんでいました。

このくらい色の人々は、いくさで国をうばうことが、何よりもすきでした。

金のへさきのついた銀の船を見ると、人々はそれを自分たちのものにしたくなりました。

人々はぶきを持ち、大いくさのしたくをしました。

かならず勝てるように、人々はゼウスから、かみなりといなずまをかりてきました。

その日が来て、くらい色の人々がせめこむじゅんびはすっかりととのいました。

人々は朝、パイエケス人の国に着きました。アルキノオス王は前に進み出て、人々をむかえました。

人々はすぐに、王さまひとりのほうが、自分たちのぐんぜんぶよりも強いことに気がつきました。

王さまは、見ると目がくらむほど、まぶしくかがやくよろいを着ていました。よろいは、先にダイヤモンドのついた、何百万本もの金の矢でおおわれていました。王さまは、こわがっている人々に、その矢を四方八方へいっぺんにうてることを見せました。

くらい色の人々はこわくてふるえましたが、アルキノオス王は人々にほほえみかけ、それから自分の人々といっしょに、西のほうへゆっくりと船で去っていきました。

どんどん進んでいくと、大きな銀の海に着きました。

そこで船を止め、王さまのためにきゅうでんをたてました。

このきゅうでんは、銀と金とたから石でできていました。

宮でんのとうはバラ色で、ふしぎな光にかがやいていました。

階だんは、じゅんきんでできていました。

銀の門の両がわには、きゅうでんを守る大きな犬がいました。

大広間には、白い服を着て、もえるたいまつを持った男の子たちがいました。

すばらしいカーテンをおったり、かべに絵をかいたりしている女の子たちもいました。

山やふん水、川や湖もありました。

歌う鳥や花の庭があり、どこにも小さな子どもたちがいました。

今でも、えらい王さまは一日の仕事をおえると、よく西のきゅうでんにすわっています。

王さまは、人々がかじも、風をうけるぬの（ほ）もない船に乗って、銀の海をすべるように進むのをながめるのが大すきです。

あらあらしい、くらい色の人々は、今でもいくさに出かけます。

やさしい王さまに、たたかっているところを見せることはめったにありません。

けれども、いさましいたたかいのあとには、よくアルキノオスがきゅうでんから出てきて、人々に明るくほほえみかけます。すると、くらい色の人々は顔を赤らめて、王さまにほほえみかえすように見えます。

このくらい色の人々がどんなによいことをしているか、そしてパイエケス人の王さまが人々の仕事をどう助けているかを知れば、そのなかよしのわけがわかるでしょう。

たんご と クイズ　アルキノオスのきゅうでん

ships 船	**thunder** かみなり	**lightning** いなずま
armor よろい	**palace** きゅうでん	**dogs** 犬
torches たいまつ		

Q1 くらい色の人々が、ゼウスからかりてきたものは？

① 銀の船　② かみなりといなずま　③ 金の矢

Q2 アルキノオス王のよろいは、何でおおわれていた？

① ダイヤモンドの先がついた金の矢　② 鳥の羽　③ 花びら

Q3 王さまがほほえみかけると、くらい色の人々はどうなる？

① にげ出す　② おこり出す　③ 顔を赤らめる

こたえ

Q1 ②　かならず勝てるように、ゼウスからかみなりといなずまをかりてきました。

Q2 ①　よろいは、先にダイヤモンドのついた、何百万本もの金の矢でおおわれていました。日の光のようですね。

Q3 ③　くらい色の人々は顔を赤らめて、王さまにほほえみかえすように見えます。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #30800（Flora J. Cooke、1895年）。パブリックドメイン。
挿絵：(1895 edition)（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Linette Geisel（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。